



坂本龍馬の人物像概略

坂本龍馬は、父、土佐藩郷士・坂本直足39歳、母幸38歳の次男（兄1人、姉3人、5人兄弟の末子）として高知城下本丁筋1丁目に生まれた。坂本家は、城下屈指の豪商「才谷屋」。

坂本龍馬の妻お龍（西村つる）の回想録「川田瑞穂著『千里（せんり）の駒（こま）後日譚（ごじつたん）第6回』明治32年11月10付 土陽新聞」によると…

「龍馬の生まれた日は、天保6年の11月15日で、丁度斬られた月日と一緒に聞いています。」との記載がある。これ以外に生誕日を記したものは見つからない。天保6年11月15日は新暦で1836年1月3日。

19歳の時江戸へ剣術修行にゆき、北辰一刀流・千葉定吉道場に入門。22歳の時にも再度江戸へ遊学。26歳の時、武市瑞山率いる土佐勤王党に加盟。文久2年（1862）3月土佐脱藩（28歳）。12月には松平春嶽（まつだいらしゅんがく）に謁見、大阪近海の国防策を申立てる。この頃勝海舟の門弟となった。

千葉重太郎と共に開国論を唱える海舟を斬るつもりで赤坂氷川下の海舟邸を訪ねるが逆に世界情勢を説かれ門弟となるという逸話は明治期の伝記小説「千頭清臣（ちかみきよおみ）著『坂本龍馬』明治41年」に登場するが根拠はない。

文久3年（1863）1月には勝海舟の紹介により、幕臣、大久保忠寛に会う。この時期、その人脈をいっきに広げるのは、龍馬の人柄によるものであろうか。松平春嶽、勝海舟、大久保忠寛（おおくぼただひる）等との出会いはその後の龍馬に大いに影響を与えたであろう。